

4. 4. Dクラス

I. 担当実習生

国沢里美、稲田朋晃

II. クラス目標

学習者の多くは大学など正規の学習機関の日本語コースを受講してきており、基本的な文法項目はひととおり学習してきていると予想された。そこで、待遇の使い分け、感情表現などを重視し、周囲の日本人とよりよい人間関係を築くための表現を学ぶことを目標とした。「依頼」「謙遜」などの機能シラバスを軸とし、音声表現、読解・ディスカッション、オノマトペなどの項目も加え、総合的な日本語運用能力をつけることを目指した。

III. 学習者

学習者	国	籍	性別	学習歴	滞日期間	参加日
A	カナダ		男	4年	5年10か月	全日
B	アメリカ		男	2年	2年11か月	全日
C	アメリカ		男	?	2年10か月	全日
D	オーストラリア		女	5年	2年6か月	全日
E	ニュージーランド		男	3年	1年1か月	全日
F	カナダ		男	2年	1年6か月	11日、12日

学習者の出席率は全体的に良好で、学習者F以外はすべての授業に参加した。遅刻もほとんどなかった。Fは授業中に質問をたくさんするなど学習に熱心な様子であったが、両親が来日するとの理由で、17日以降はすべての授業を欠席した。

学習者の性格は総じて明るく、授業時間内の会話はもとより、休憩時間のおしゃべりも活発であった。授業中に冗談を言い合う場面も多かったが、授業を乱すレベルまで到達することはなく、全員大人らしいふるまいで授業に臨んでいた。

学習者Aは、日本語力がもっとも高く年長者であるためか、授業中に教師の説明が伝わらなかったときなどに仲介してくれたり、全体の調整役をかって出でてくれた。

学習者Bは、日本人のような人あたりのよさと高い学習意欲を持っていた。フェアウェル・パーティーの司会を自らかって出でてくれるなど、リーダーシップの強い学習者であった。

学習者Cは、JET プログラムの2年目である。語彙や文法が多少弱い面はあるものの、高いコミュニケーション能力を持っており、授業を明るくしてくれた。

学習者Dは、一見内向的でもの静かに見えたが、ロールプレイなどをやってもらうと、非常によく話した。

学習者 E は、当初予想したより日本語能力が高かった。冗談も多く、明るい性格だった。
 学習者 F は、先に述べたように、非常に学習熱心な様子であった。

IV. 学習者のニーズ・レディネス

事前アンケートとインタビューによって、学習者のニーズを尋ねた。もっとも多かった回答は漢字と文法であり、新聞の漢字が読めるようになりたいという意見もあった。会話の面では、職場で使う表現や待遇表現を学びたいという意見が多かった。多くの学習者に日本人の配偶者や恋人がおり、日本人の友達も多いようで、日常会話レベルでは困ることは少なく、よりフォーマルな場での読み書きや会話を学びたいようだった。

レディネスは、事前アンケート内の学習期間や学習機関、教科書などの情報に加え、インタビュー時のロールプレイと文法テストによって判断した。ロールプレイは校長先生に休暇願いを出すという設定で行った。おおよそ上手くできていたが、待遇表現が不十分な話者や談話構成に問題のある話者が何人かいた。文法テストは、受身・使役、待遇表現などを中心にした問題を用意した。チャンスレベルの得点から満点近くまで、レベル差が大きかった。

V. シラバス

「依頼」「謙遜」などの機能シラバスを軸とし、音声表現、読解・ディスカッション、オノマトペなどの項目を加えた。

月日	1 限目	2 限目	3 限目
8月10日(水)	文法①敬語(尊敬語)	文法①敬語(謙譲語) 文法②授受表現	音声指導の概要を説明 先生にメールを書く
8月11日(木)	依頼と断りの表現	お礼を言う・謝る	「ア」「エ」など感嘆詞 のイントネーション
8月12日(金)	許可を求める表現	感嘆詞のイントネーシ ョンの復習と終助詞の イントネーション	インターネットで必要 な情報を調べる練習
8月17日(月)	意見を言う	文イントネーション	NEET についての発 表・討論①
8月18日(火)	相談する・助言する	NEET についての発 表・討論②	感情を表す副詞・オノマ トペ①
8月19日(水)	オノマトペ②	身体表現	事後アンケート パーティー

VI. テキスト編纂

テキストは、昨年の教育実習で使われた中上級用テキストや市販されているテキストを参考にしながら、作成した。

機能シラバスの部分は、2004 年度夏の教育実習用テキスト『ゆかた』を中心に、『Situational Functional Japanese』『新日本語の中級』などを参考にしながら作成した。音声指導の部分は、『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』などのテキストを参考に作成した。読解・ディスカッションについては、鮮度の高いテーマが望ましいと考えたため、テーマを「ニート」に決定し、WEB 上の記事などを引用しながら独自に作成した。以下に参考にしたテキスト名を挙げておく。

- ・筑波ランゲージグループ（1991）『Situational Functional Japanese 1,2,3』凡人社
- ・海外技術者研修協会（2000）『新日本語の中級』スリーエーネットワーク
- ・小川誉子美、前田直子（2003）『日本語文法演習（上級）敬語を中心とした対人関係の表現—待遇表現—』スリーエーネットワーク
- ・藤原雅憲、初山洋介編（1997）『上級日本語教育の方法』凡人社
- ・戸田貴子（2004）『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』スリーエーネットワーク
- ・河野俊之・串田真知子・築地伸美・松崎寛（2004）『1日10分の発音練習』くろしお出版

VII. 授業内容

2005年8月10日	1限目	担当：国沢	
学習事項			
文法①敬語（尊敬語）			
授業の流れ			
<p>まずお互いに自己紹介をしてから授業に入った（JETの人同士、アルティアセントラルの人同士で他者紹介をしてもらおうと考えていたが、お互いをよく知らないと言われ、自己紹介になった）。</p> <p>導入では、「目上の先生のお宅に電話したことがあるか。何と言うか」という質問をし、提示した会話例の中で不適切だと思われる箇所を指摘してもらった。そして、マス形から尊敬語への変換ドリル、目上の先生に質問するチェーンドリルを行なった。最後に、目上の先生を紹介するスピーチ原稿を、尊敬語を使った表現に変えるというタスクを行なった。</p>			
反省			
<p>今回のコースにおけるクラス目標は「待遇表現の使い分け」であり、最初に敬語を扱うことで学習者の敬語への意識を高めることをねらった。そのため、尊敬語と謙譲語の形を1つずつ確認したが、敬語のニーズが高かったこともあり、積極的に取り組んでもらえた。学習者は全員敬語を勉強したことがあり、予想していたより練習はスムーズに進んだが、忘れてしまっている部分もあったので最初に復習してよかったと思う。</p>			
2005年8月10日	2限目	担当：国沢	
学習事項			
文法①敬語（謙譲語）、文法②授受表現			
授業の流れ			
<p>謙譲語は、絵パネルを見て、適切なセリフを考えるという導入をし、尊敬語と同じく、マス形から尊敬語への変換ドリル、目上の先生に質問するチェーンドリルを行なった。ここで尊敬語と謙譲語が使われる場面を比較し、2つの使い分けを確認した。そして目上の先生との会話シートを完成させ、それを参考にしながら目上の人との会話を練習した。</p> <p>授受表現については、プレゼントに何をあげるか／もらったことがあるか、について質問するという導入であった。図を使って「あげる・もらう・くれる」を整理し、「いただく・くださる」についても確認した。最後に絵カードを見て文を作ってもらった。</p>			
反省			
<p>まとめとして尊敬語・謙譲語の一覧表を配布したが好評だった。授業時間以外でも参照できるものがあつたほうがいいと思う。</p> <p>初日の2コマで、コース全体に関わる項目のうち特に重要であると思われる「敬語」と「授受表現」の復習をしたいと考えたが、内容が多すぎた。授受表現に関しては、予定していたタスクができず練習が不十分なまま終わってしまった。</p>			

2005年8月10日	3限目	担当：稲田
学習事項		
音声指導の概要を説明、先生にメールを書く		
授業の流れ		
<p>6日間のカリキュラムの中で、1日15分程度、音声指導を行うことを説明する。その後、イントネーションなどの指導項目を含んだダイアログを学習者によんでもらい、録音する。全員ノリノリでダイアログを読んでもらった。</p> <p>日本語でのメールの書き方の概要を説明した後、院生室のコンピュータールームに移動。鷺見先生あてに遠足に参加して欲しいという旨のメールを書いて送ってもらう。学習者は個々に黙々と作業をしており、時折、分からないところを質問していた。</p>		
反省		
<p>ほとんどの学習者が日本語でメールを書いたことがあり、体験としての価値は少なかったように思う。学習者が書いた文章は、それぞれを添削して次の日の休憩時間に返した。しかし、少しでも時間をとって全員向けにフィードバックを行ったほうがよかったように思う。</p>		

2005年8月11日	1限目	担当：稲田
学習事項		
依頼と断りの表現		
授業の流れ		
<p>依頼表現を、友達との会話の場合と上司との会話の場合に分け、待遇に留意した依頼表現を学ぶことを目的とした。また、談話構成に留意した丁寧な断り方も指導した。</p>		
反省		
<p>学習者同士でロールプレイを行ったが、依頼されるほうの学習者に「何度断るか」を指示しなかったため、会話がすぐに終わってしまった例があった。また、断り表現の説明がロールプレイの後になってしまったため、説明が重複してしまった。</p>		

2005年8月11日	2限目	担当：国沢
学習事項		
お礼を言う・謝る		
授業の流れ		
<p>「お礼を言う」については、お土産をもらった時それをいつ開け、いつお礼を言うか、という質問から授業に入った。モデル会話を読み、内容を確認した後、いくつかの感謝表現を提示した。そして会話例を使って場面ごとに適切だと思われる表現を考えてもらった。</p> <p>「謝る」の導入は、忘れ物を取りに戻ったために学校に遅れたとき、何と言って謝るか、という質問であった。その後、モデル会話の確認、高いレベルの待遇表現が要求される場面における表現の確認、という流れで授業を進めた。</p>		
反省		
<p>授業時間に対して扱う内容が多く、学習者の発話機会が十分でなかった。表現のバリエーションを増やす練習は評価されたが、使用場面をはっきりと提示することができなかった部分があった。</p>		

2005年8月11日	3限目	担当：稲田
学習事項		
「ア」「エ」など感嘆詞のイントネーション		
授業の流れ		
<p>映画『釣りバカ日誌』の一部を見ながら、スクリプトの空欄に聞こえた感嘆詞を入れるという活動を導入とした。その後、イントネーションの解説と、教師のキューによる発話練習をした。</p>		
反省		
<p>DVDプレーヤーの操作に不手際があり、単なる導入にもかかわらず余分な時間がかかってしまった。事前に編集しておくべきだった。また、発話練習において学習者にシチュエーションを自由に考えて発話してもらった活動をしたが、説明または例が不十分でなかなか意図する発話がでなかった。</p>		

2005年8月12日	1限目	担当：国沢
学習事項		
許可を求める表現		
授業の流れ		
<p>導入では3つの許可を求める場面を提示し、それぞれに適切な表現を考えてもらった。モデル会話を読み、内容を確認した後、ペアで場面に応じて待遇表現を変えた許可の求め方の練習をした。さらに、許可を求められた場合の答え方の確認・練習も行なった。最後に、場面が書かれているカードを見て許可を求め、聞かれた人はそれに答える、というロールプレイをした。</p>		
反省		
<p>待遇による使い分けがどれ位できるかを見たかったため、それまでの授業に比べて導入に時間をとった。導入にしては少し負担が大きいものだったかもしれないが、待遇への意識を高めるという点では効果があったと思う。また、前日の反省から学習者の発話機会を増やすことを意識してペアワークやロールプレイを多く取り入れた。アンケートでもそれを評価するコメントが見られた。しかし、ロールカードの指示にあいまいな部分があり、それによって待遇のレベルが変わってしまったところがあった。</p>		

2005年8月12日	2限目	担当：稲田
学習事項		
感嘆詞のイントネーションの復習と終助詞のイントネーション		
授業の流れ		
<p>感嘆詞の復習は、教師の発話に対して学習者がなんらかの感嘆詞で答えるという形で行った。</p> <p>終助詞は、導入→説明→練習という手順で、「か・よ・ね」と「じゃない」をそれぞれ指導した。</p>		
反省		
<p>研究レポートでも述べたが、学習者の発話にイントネーションの誤りがあるにもかかわらず、それに気づかず訂正しなかった場面が多かった。場の楽しい雰囲気にならず、冷静に対処すべきだった。</p>		

2005年8月12日	3限目	担当：稲田
学習事項		
インターネットで必要な情報を調べる練習		
授業の流れ		
<p>「よみよみ」「webUD」などのソフトを紹介した後、コンピューター室へ移動。餃子の歴史と中国の餃子と日本の餃子の違いを調べるというタスクをやってもらう。学習者が困っていれば、教師2人がそれぞれ個別にアドバイスをした。その後、学習者が調べた内容を各自が発表した。</p>		
反省		
<p>多くの学習者が紹介したソフトを便利だと感じていたようだ。タスクの難易度もちょうどよかったように思う。</p>		

2005年8月17日	1限目	担当：国沢
学習事項		
意見を言う		
授業の流れ		
<p>日本人の先生に対し、英語の間違いをどう指摘するかという質問から授業に入った。そしてモデル会話を読み、内容を確認した後、「意見を言う／賛成・反対する／相手の意見を確認する／相手の意見に付け加える／意見を求める／説明を求める」場合の表現を確認した。その後2つのグループに分かれ、「住むなら都会と田舎、どっちがいいか」というテーマでディベートをした。まず各グループで意見を出し合い、ディベートに備えた。そして相手の意見を聞いた上で、自分たちの意見を述べるという活動を行なった。</p>		
反省		
<p>学習したものを意識的に使う練習ができたと思う。ディベート中、テキストを見ながら学習した表現を使おうとしている姿が見られた。ディベートでは全員が自分の意見を述べることでできており、予想以上に盛り上がった。しかし、導入部分とディベート部分のつながりは良くなかった。導入の部分では、実生活に近く分かりやすい話題を選んだつもりであるが、授業の流れを考えると再検討の余地がある。今回のクラスが特に準備がなくてもディベートができるほどのレベルであり、尚且つ積極的に意見を述べてくれる学習者に恵まれていたので成り立った部分大きい。</p>		

2005年8月17日	2限目	担当：稲田
学習事項		
文イントネーション		
授業の流れ		
<p>日本語では、平叙文、否定文、疑問文など文型によってイントネーションのパターンが異なることを説明。その後、例示→説明→ひとりずつ発話というパターンで進める。最後に、文イントネーションに気を付けながらモデル会話を2人で読むペアワークを行った。</p>		
反省		
<p>今までの音声項目に比べて、リピートの声が小さいなど学習者の反応がイマイチだった。なぜ文イントネーションを練習する必要があるのかをもっとよく説明しておくべきだったと思う。</p>		

2005年8月17日	3限目	担当：稲田
学習事項		
NEETについての発表・討論①		
授業の流れ		
<p>あらかじめ「ニートと雇用形態」など3つのテーマを5人の学習者に振り分け、各自でテーマに関する記事をインターネットなどから探し、それについてのコメントを文章でまとめてきてもらった。この時間は、3人の学習者が発表を行った。発表者が選んだ記事を読みなで読み、さらに発表に対しての質疑応答の時間をとり、討論の練習をした。討論が滞った場合は、教師から発言を求めるなどの調整を行った。</p>		
反省		
<p>記事選びは、12日の「インターネットで必要な情報を調べる」という練習の応用として位置づけられる。学習者が自分の日本語レベルに合わせて、記事の難易度を選んでいた点はよかったと思う。討論においては、自分の意見が言えるようになることを目標としていたので、賛成側と反対側に無理に分けることはしなかった。レベルの高い学習者にはアンケートで「創造的な活動でよい」という評価をもらった。一部の学習者は、最初なかなか自分の意見を日本語にするのが難しいようであったが、後半になって活発に発言するようになっていた。そのため、比較的レベルの低い学習者にもよい練習になったと思う。</p> <p>ただし、語彙や文法などにいっさいフィードバックを与えなかったことがよかったのかどうかには疑問が残る。</p>		

2005年8月18日	1限目	担当：稲田
学習事項		
相談する・助言する		
授業の流れ		
<p>友達、上司など待遇の違いを考慮して、相談したり、助言したりできるようになることを目標とした。導入→モデル会話の読み上げ→表現の紹介→ロールプレイという流れで進める。</p>		
反省		
<p>以前の授業後アンケートで学習者から「もっと発話の機会を増やして欲しい」という意見があったので、表現の紹介や説明を短めにし、ロールプレイに多くの時間を割いた。これまでの機能シラバスに基づいた授業のロールプレイでは、会話の流れが単調になってしまっていたので、ロールプレイのバリエーションを増やした。教師のフィードバックの与え方も少し慣れてきて工夫できていたように思う。</p>		

2005年8月18日	2限目	担当：国沢
学習事項		
NEETについての発表・討論②		
授業の流れ		
<p>ニート対策について調べる担当の学習者が、まとめてきたレジュメに沿って発表する。他の学習者はそれを聞いて質問する。その後、各国の対策について話したり、既に日本で働いている人は日本の学校の現状について話す。</p>		
反省		
<p>学習者全員がそれぞれの意見を言ってくれた。発言回数にもさほど偏りがなく、ディスカッションに対して積極的な態度だったと思う。しかし、フィードバックが少ないと感じている学習者がいたことが授業後アンケートから分かった。授業後アンケートは1日の授業について答えてもらったものであり、このコマに対する意見であるかは明らかではないが、ディスカッションにおけるフィードバックを考える良い機会になった。事前に準備してきたレジュメについてのフィードバックは全体で行なったが、ディスカッション中に話を止めることは難しく、学習者の発言意欲の低下も招きかねない。これについては今後の課題である。</p>		

2005年8月18日	3限目	担当：国沢
学習事項		
感情を表す副詞・オノマトペ①		
授業の流れ		
イラストを見て、どんな表現（副詞・オノマトペ）を使うかを確認した後、それを使った文を作ってもらった。		
反省		
聞いたことはあるが忘れてしまうという意見があったので、もっと会話の中で使う練習をするべきだった。副詞の部分は時間が足りず（30分授業だった）、表現の確認だけで終わってしまった。		

2005年8月18日	3限目	担当：稲田
学習事項		
文イントネーション		
授業の流れ		
語と語の修飾関係によってイントネーションが変わることを説明した後、イントネーション曲線入りのモデル会話をペアで練習。前回の授業で扱った、文型によるイントネーションの違いにも留意するように指導する。最後に、ペアごとに発表をしてもらい、誤りがあれば訂正を行った。		
反省		
説明は短めにして、ペアでの練習に重点を置いた。このような練習をいままでしたことがないせいか、学習者はみな一生懸命練習していた。一部の学習者には難しいようで、少し苦勞していた。とりあげた項目はよかったと思うが、このような練習を1日行っただけで、果たしてどれほどの効果があるのか分からない。音声の授業全般にいえるが、1つの項目を毎日少しずつ復習できるようなカリキュラムのほうがよかったと思う。例えば、文イントネーションをカリキュラムの最初のほうで指導すれば、学習者は音声指導以外の時間のロールプレイなどにおいてもイントネーションに気をつけて発話をし、それが復習になり得たかもしれない。		

2005年8月19日	1限目	担当：国沢
学習事項		
オノマトペ②		
授業の流れ		
<p>イラストを見てどんな表現をするかを確認した後、それを使った会話文を提示し、練習した。そして医者と患者という設定で会話を作ってもらった。</p> <p>オノマトペを使った文章を読み、新しい表現を導入した。そして、それぞれの使用例を確認し、学習者にも文を作ってもらった。</p>		
反省		
<p>病気や痛みに関する部分は会話練習の時間が十分あったと思うが、授業後半に導入した「もくもく」、「こつこつ」などの表現については例文を作る活動だけで終わってしまった。休憩の時間や他のコマでオノマトペを使った発話が見られたが、事後アンケートを見ると、学習者によって評価が分かれている。準備段階において、使用につながる練習であるかという認識が甘かった。</p>		

2005年8月19日	2限目	担当：稲田
学習事項		
身体表現		
授業の流れ		
<p>「目に浮かぶ」「口がかたい」などの身体表現を学ぶことを目標とする。「机の脚」などのイラストで導入した後、プリントの穴埋め問題を各自にしてもらおう。その後、答え合わせ。最後に身体表現を使った作文をしてもらい、各自に発表してもらおう。</p>		
反省		
<p>授業前に想像していたより、みな身体表現をあまり知らないようで、新しく学ぶことは多かったようである。しかし、カリキュラムを考えているときからそうであったが、この語彙学習の時間は、余った時間に無理に入れた、つまりおまけ的な位置づけが強く、学習者は「なぜこれを勉強するのか？」という疑問を抱いていたかもしれない。コース全体の目標とそれぞれの授業内容の関わりをもっと真剣に考えるべきであった。</p>		

VIII. 授業後アンケート

●目的

各授業の反省・改善のため、毎日授業後にアンケートを実施した。

●質問項目

教師と授業内容についてそれぞれ以下の質問をし、該当する選択肢をチェックしてもらった。また、最後に自由に記述してもらうスペースを設けた。

A. 教師について

- ①話し方 ・明確さ (明確である・普通・明確でない)
・速さ (早すぎる・ちょうど・遅すぎる)
・語彙 (易しすぎる・ちょうど・難しすぎる)
- ②指示の出し方 (わかりやすい・わかりにくい)
- ③文法説明のし方 (わかりやすい・わかりにくい)
- ④フィードバックの与え方 (良い・悪い・気付かなかった)
- ⑤フィードバックの量 (少なすぎる・ちょうど・多すぎる)

B. 授業内容について

- ①満足できたか (はい・あまり・いいえ)
- ②授業内容を理解できたか (よく理解できた・理解できた・理解できなかった)
- ③何かを学んだと感じるか (はい・いいえ)
何を学んだと感じるか／何をもっと学びたかったか
(語彙・文法・会話ストラテジー・その他)
- ④発話の機会は与えられたか (多かった・あまりなかった・全然なかった)
- ⑤考える時間は与えられたか (多かった・あまりなかった・全然なかった)

●結果

・学習者の評価を含んだ授業の振り返りができた。また、すぐに改善できる点は次の授業に反映させることができた。改善した点については、学習者から肯定的な評価がもられた。

・授業中の様子だけでは把握しにくかった学習者間のレベル差（理解度や困難度）を比較的早い段階で知ることができた。

・学習者の負担を考え、1日（3コマ）の授業全体に対して評価してもらった。そのため、どの授業についての評価であるか判断しにくい部分もあった。各授業や各担当者に対するコメントをくれた学習者もいたが、どの授業に対する評価なのか分かるようなチェック欄を設けるなど、もう少し工夫しておけばよかった。

・自由にコメントを書いてもらえる項目を設けたが、期待していたよりもコメントは多くなかった。

IX. 全体の反省

●コース開始前

インタビューではレベル判定に重点を置きすぎてニーズの聞き出しが十分できなかった。上級になるほどニーズにバラつきが出ると予想される。予めいくつかの項目を用意しておく、それが必要であるかどうかを答えてもらうなどして、より具体的にニーズを把握しておく必要があった。

また、学習者のレベル差はインタビューの時に感じた以上に大きかった。インタビュー時に行なったロールプレイと文法クイズによる結果で、ほぼ同じとみなした2人の学習者は、授業時の口頭表現力、読解力などになると明らかにレベルが違っていた。コース開始前に正確にレベルを把握することは不可能であることを念頭に置き、柔軟性のあるカリキュラムを準備しておく必要がある。インタビュー時の判断に頼りすぎたため、レベルの把握にズレがあることに気付くのが遅れ、授業内容や方法の修正・決定が前日になってしまいうことが多かった。

●コース開始後

今回のクラスの軸である「待遇表現の使い分けなどに焦点を置いた会話練習」については、肯定的評価も否定的評価もほとんどされなかった。文法の復習、語彙の学習、ディスカッション、パソコンを使った授業、音声指導などは評価されたが、学習者によって評価する項目も、その項目に対する評価が肯定的であるか否定的であるかも異なった。会話練習が評価されなかった理由として次の2点が考えられる。①「待遇表現の使い分け」への焦点の置き方が曖昧だった。②フィードバックの量が足りず、フィードバックの基準が明確でなかった。①については実習生の認識の甘さと準備不足による。②については授業後アンケートで1番できる学習者から指摘された。個別に質問を受けた場合でも、クラス全体に反映されるものは取り入れたほうがよかったと思う。実習中も「指導項目の焦点から外れず、学習者の自信をそがず、かつ十分な量」という点を意識したが、フィードバックについては、肯定的なものも含めて今後の課題である。

テキストについては、文法リストや語彙リストなど後で参照しやすいものが評価された。推薦図書など、コース後に学習者が自習する助けになるものをもっと紹介すればよかったと思う。

<稲田・国沢>